

## その他 — 多良木相良氏関係の文化財

### とうこうじ きょうづつ まがいたび 東光寺の経筒と磨崖板碑

中世の「多良木村」の中には東光寺村が含まれています。東光寺村は、頼景の嫡子・長頼が領掌し、長頼死去後は頼氏が領知しています。東光寺の文応元年(1260)の再興も頼氏によるものです。

東光寺に埋納された文永10年(1273)11月4日銘の経筒は、モンゴル帝国との対外的な緊張の最中、多良木家の頼氏らが一族の現世安穩・後生善処を祈願し、埋納したものです。また、経塚の背後には、磨崖板碑も彫り込まれ、祭祀の象徴となっています。

板碑の形態を採用したのは、東国に出自を持つ多良木相良氏の意図が働いたと考えられます。また、磨崖板碑のその大きさは当時のランドマークであったといえ、地域社会への権威付けの機能もあったと考えられます。



東光寺磨崖板碑オルソ画像



青銅製経筒8個(昭和11年に開墾中に偶然発見されました)



王宮神社楼門

### おうぐう 王宮神社

蓮花寺や東光寺とならんで頼氏以来の多良木相良家が信仰したのが、黒肥地字是居の球磨川畔に鎮座する王宮神社です。王宮神社は、鮎之瀬井手が球磨川に合流する箇所<sup>えんきよう</sup>に占地しています。

延享元年(1744)の棟札には、文応2年(1261)に「大旦那藤原頼氏御宝殿造営」、永仁6年(1298)に「大旦那藤原牛房丸(経頼)御神殿造営」、応永3年(1396)に「大旦那藤原頼忠御宝殿修造」、応永23年(1416)に「大旦那沙弥大蓮(頼忠)同遠江守頼久神殿八棟作<sup>に</sup>而拝殿御供所迄新<sup>に</sup>造営 同年頼久楼門建立」と記されており、多良木相良家の歴代当主によって造営、修造されていたことが分かります。



国史跡

多良木  
相良氏  
遺跡

熊本県  
球磨郡  
多良木町

熊本県

多良木町



お問い合わせ

多良木町役場 企画観光課

〒868-0595 熊本県球磨郡多良木町多良木1648

TEL:0966-42-1257

歴史とロマンの里  
多良木町

Webサイト



歴史とロマンの里  
多良木町

# 多良木相良氏遺跡が 国史跡になりました。

国史跡 多良木相良氏遺跡

青蓮寺から球磨川を望む



## 多良木相良氏遺跡とは？

令和7年9月、多良木相良氏遺跡が国の史跡に指定されました。指定された多良木相良氏遺跡は、多良木町の黒肥地区にあります。

多良木相良氏は、鎌倉時代に西遷した鎮西相良氏(九州に土地をもらった相良氏)の惣領家(本家)です。

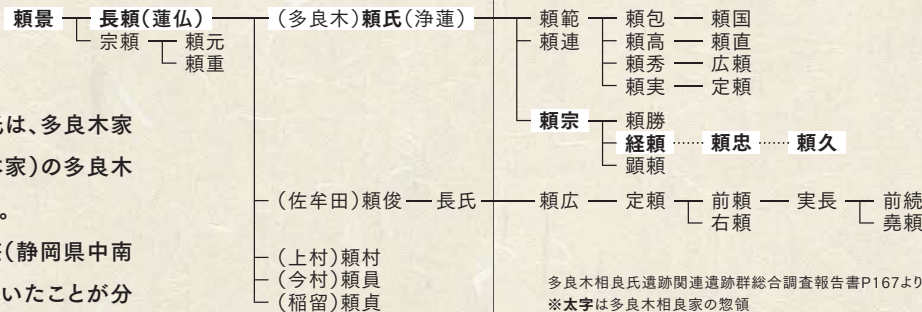
多良木相良氏遺跡は、多良木相良氏に関する遺跡の総称で、「蓮花寺東之前遺跡」と「青蓮寺境内」で構成されます。この2つの遺跡は、中世武士団多良木相良氏の地域開発の様子を知る上で貴重な事例であると評価され、国の史跡に指定されました。



## 多良木相良氏系図

鎌倉時代、肥後熊本に領地を獲得した相良氏は、多良木家や佐牟田家などに分かれていきます。惣領家(本家)の多良木相良氏は、中世の多良木村に本拠を構えました。

多良木村に地盤をおきながら、遠江国相良荘(静岡県中南部)や鎌倉、京都などの土地にも権利を有していたことが分かっています。



多良木相良氏遺跡関連遺跡群総合調査報告書P167より転載  
※太字は多良木相良家の惣領



多良木相良氏の拠点

蓮花寺東之前遺跡

# 蓮花寺東之前遺跡

れんげじひがしのまえ  
蓮花寺東之前遺跡は、文化年間(1804~1818)成立と考えられる相良氏の家譜である南藤曼綿録によれば、相良頼景が屋敷を構えた場所とされます。江戸時代の「球磨絵図」にもその様子が描かれており、遺跡名の由来となった「東の前」と記されています。



江戸時代の球磨絵図  
(人吉市教育委員会提供)

蓮花寺東之前遺跡は、球磨川に面して石積の堤防があり、三方を堀によって区画された遺跡です。13世紀中頃から徐々に形成されはじめ、13世紀後半から15世紀中頃にかけてピークを迎えます。また、堀への水の供給は、多良木相良氏が開発したとされる、鮎之瀬溝の用水でした。

遺跡の規模は小さいものの、出土している陶磁器は、高級品も含まれるので、多良木相良氏に関係する有力者の拠点あるいは、港湾施設等の流通拠点であったと考えられます。

15世紀後半には、堀の掘り直しと土塁が構築され、16世紀には廃絶します。この時期は、多良木相良氏が人吉に本拠を置く相良長統により滅ぼされ、永留相良氏に併呑される時期にあたります。



石積堤防の様子



蓮花寺東之前遺跡 北側堀トレンチ断面



(土塁断面)15世紀後半に造成された土塁



- 黄釉鉄絵洗
- 瀬戸瓶子
- 白磁梅瓶
- 瀬戸卸皿
- 白磁四耳壺
- 青磁香炉
- 合子蓋
- 大型甕
- 高麗象嵌青磁鉢
- 緑釉洗
- 白磁水注

多良木相良氏の拠点

# 蓮花寺東之前遺跡の 出土品

出土陶磁器は、白磁四耳壺・瀬戸卸皿・青磁香炉・白磁梅瓶・瀬戸瓶子・白磁合子・高麗象嵌鉢・緑釉洗・黄釉鉄絵洗・枢府系白磁・白磁水注が出土しています。

館として遜色ない高級品を備えている一方で、コンテナ容器である中国製大型甕もあり、流通拠点に相応しい製品も合わせもっていることが特徴です。

また、白磁四耳壺・水注、梅瓶、華南三彩の緑釉洗、黄釉洗などは、鎌倉や東国の御家人クラス、それに準ずる館からも出土するセットです。

## 蓮花寺

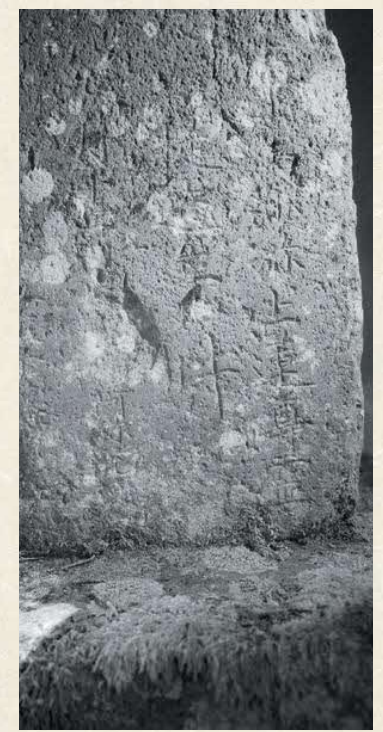
蓮花寺東之前遺跡の隣には、蓮花寺が隣接しています。蓮花寺は、嘉禎元年(1235)に相良頼氏が創建した多良木相良氏の供養所です。

境内には熊本県指定の五輪塔群があり、その中の笠塔婆(高さ108cm)には文永6年(1269)の銘文が刻まれています。

この年、頼氏の極楽往生を祈念する生前供養が営まれました。背景には対モンゴル外交の危機があり、蓮花寺は多良木相良氏惣領の供養所として重要な役割を果たしていました。



蓮花寺五輪塔群



(蓮花寺笠塔婆の一部)  
沙弥上蓮=頼氏の名前がみられる

○蓮花寺跡の笠塔婆に刻まれた銘文  
右石塔志趣者奉為沙弥上蓮尊靈往生極樂證大菩提造立如件  
文永六年己巳七月十四日 比丘尼妙阿弥陀仏敬白 孝子藤原□□敬白

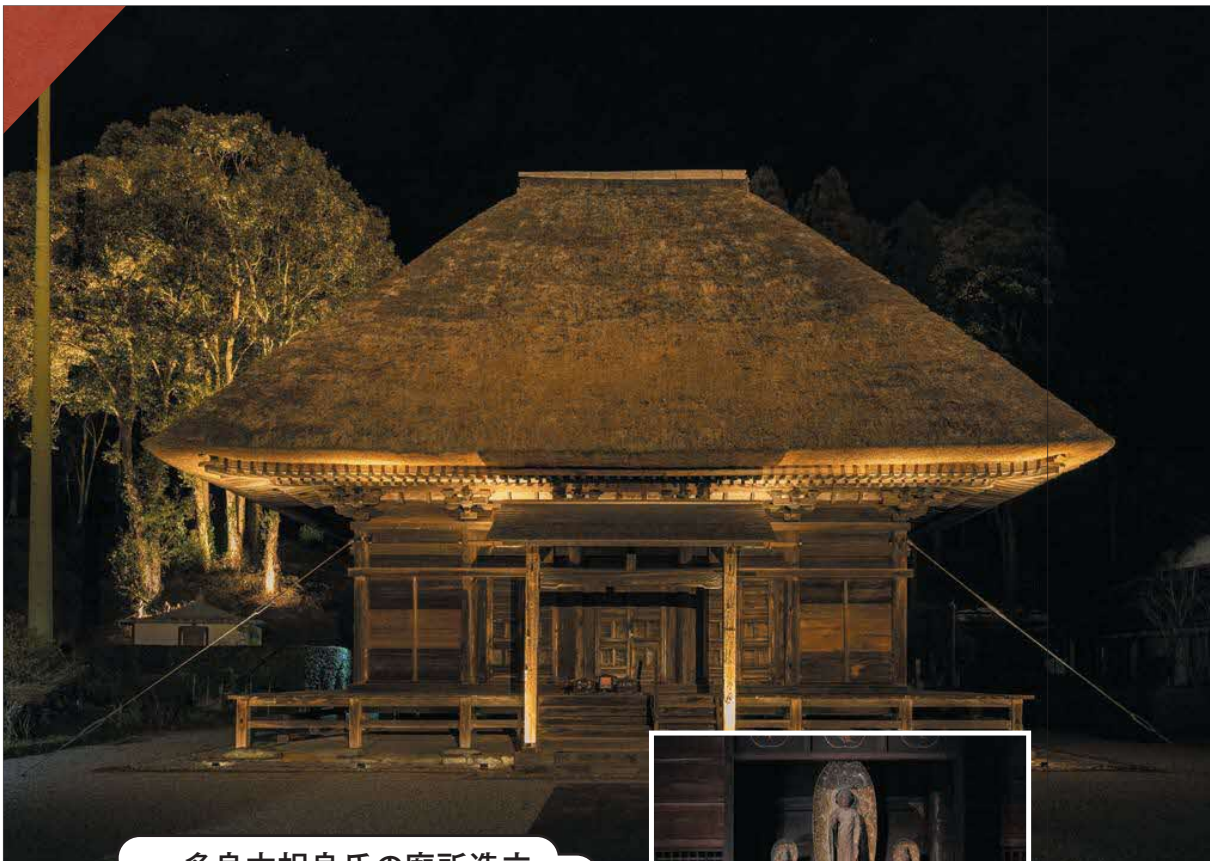
蓮花寺跡からは食膳具など多量の生活雑器とともに、蔵骨器として石積み基壇に埋納されていた褐釉四耳壺をはじめ、地中に埋納されていた双鶴鏡、法要用の三足の火舎が出土しています。その他、白磁梅瓶や天目碗などの優品を多く含む輸入陶磁器、国内産陶磁器の瀬戸産天目碗や瓶子、常滑産甕など東国のものも出土しています。



褐釉四耳壺

双鶴鏡

火舎



多良木相良氏の廟所造立

# 青蓮寺境内

青蓮寺は、永仁3年(1295)に頼宗が初代頼景の廟を建て、阿弥陀三尊を祀ったことを契機に永仁6年(1298)に頼宗により創建されました。

現在、阿弥陀堂内に安置されている阿弥陀三尊像は、京都の蓮華王院三十三間堂の観音像を7軀手掛けた法印院玄が永仁3年に製作しました。頼宗が本像を製作させた意図と構想には、在地の小領主たちや荘民たちに多良木家の京都との繋がり=文化的政治的な力を示すことや、人吉相良氏に対抗する意味も含まれていたことが考えられます。

また、現在の須弥壇構成材の一部は鎌倉時代後期の当初材で、現青蓮寺阿弥陀堂は嘉吉3年(1443)の阿弥陀堂が原型となっています。



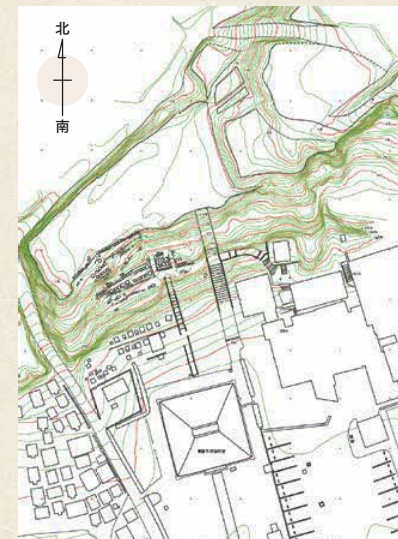
阿弥陀三尊像

青蓮寺阿弥陀堂

青蓮寺境内には、阿弥陀堂の北側斜面に古塔碑群が所在します。南向き傾斜面の段造成部分に古塔碑群が並び、その中心に壇上積基壇が設置されています。

この壇上積基壇は、阿弥陀堂の中軸線上で計画的な配置となっています。その構築時期は、その構造の特徴から永仁3年の廟所整備期であることが分かっています。壇上積基壇の西側には、多良木家・佐牟田家を統一し、相良本宗家(多良木相良氏を併呑した)を継承した11代当主相良(永留)長統、12代当主為統の五輪塔や、戦国時期・江戸期の相良氏当主の五輪塔が配置されています。

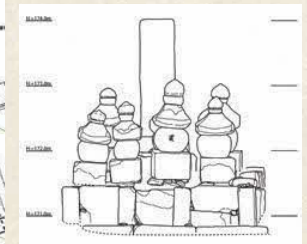
鎮西相良氏の祖・相良頼景を祀る壇上積基壇に最も近い位置に長統・為統の五輪塔が配置されているのは、壇上積基壇及びその上の伝頼景供養塔に支配の正当性を求めたからと考えられています。戦国期・江戸期の相良氏当主の五輪塔が青蓮寺境内に造営され続けたのは、このような論理が背景にあったからで、多良木相良氏滅亡後においても祖・頼景を祀る墓所景観は、相良氏支配の正当性を示す場所であり続けました。



阿弥陀堂と壇上積基壇の位置



青蓮寺古塔碑群



壇上積基壇実測図

# 多良木相良氏関係略年表

1193 相良頼景が多良木村をはじめ、  
建久4年 肥後国北部の山井山北を獲得する

12世紀末 東光寺薬師如来座像の造像

1197 頼景、源頼朝の善光寺随兵に参加  
建久8年 6月……図田帳に「多良木村没官領」との記載あり※相良氏の記載は無し

1205 (人吉)長頼、畠山重忠の軍と武蔵  
元久2年 国二俣川で戦う  
7月25日……(人吉)長頼、人吉荘の地頭職に補任される

1228 頼景、東光寺他4箇村を含む多良  
安貞2年 木村を長頼に譲る

1193~

蓮花寺東之前遺跡

13世紀中頃  
—  
遺跡が形成  
され始める

13世紀後半  
—  
幅6m、  
深さ1.8mの  
堀ができる

1233~

1233 長頼、願成寺(人吉)を創建  
天福元年

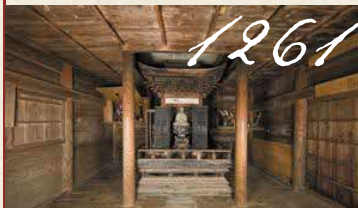
1235 (多良木)頼氏、蓮花寺を  
嘉禎元年 創建

1245 (多良木)頼氏、鶴ヶ岡八  
寛元3年 幡宮の競馬に参加する

1249 (多良木)頼氏、この頃に  
建長元年 多良木村を相続か

1260 (多良木)頼氏、東光寺再興  
文応元年

1261 (多良木)頼氏、長運寺再興、  
弘長元年 王宮神社宝殿造営



1269 (多良木)頼宗、蓮花寺  
文永6年 に笠塔婆を造塔

1273 (多良木)頼氏ら一族、  
文永10年 東光寺に経筒埋経

1261~



1301 頼宗死去  
正安3年

1313 (多良木)経頼、多良木小園村白鳥  
正和2年 神社再興



1301~

1336~

1336 (多良木)経頼、南朝に応じて  
延元元・ 建武3年 挙兵

1340 2月……(佐牟田)定長、山田城  
興国元・ 暦應3年 に陣取る相良経頼を多良木村へ追い込む

1343 8月……(多良木)経頼、佐牟田  
興国4・ 康永2年 家の相良定頼と和解する

1367 多良木の鍋城長運寺焼失  
正平22・ 貞治6年

1391 2月18日……佐牟田家と多良木家が和解  
元中8・ 明德2年 (多良木競望之事不可有候)

1396 (多良木)頼忠、多良木王宮神社宝殿修造  
応永3年

1412 (多良木)頼仙の祈願により、仏師  
応永19年 秀泉、下槻木御大師像造像

1416 (多良木)頼久、  
応永23年 王宮神社楼門整備

1391~

15世紀中頃  
—  
堀が人為的に  
埋められる

15世紀後半  
—  
堀の掘り直し・  
土塁が構築される  
~16世紀に  
廃絶



1428~

1428 この頃、(佐牟田)前統による多良  
正長元年 木家「退治」か  
(多良木)頼久死去、多良木蓮花寺  
を頼久の位牌所とする

1443 (佐牟田)堯頼、青蓮寺阿弥陀堂大  
嘉吉3年 規模改修(今の阿弥陀堂の原型)

1448 永富相良家が多良木家、佐牟田家  
文安5年 を統一、多良木家滅亡

1468 (永富)長統死去、長統の五輪塔が  
応仁2年 青蓮寺に整備